

説教

聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2021年2月28日(日)

主 題：「故郷に帰る喜びが待っている」

—恵みに生きる—

テキスト：第1ペテロの手紙4章3-6節

はじめに

- ・今日の私の説教テーマは「故郷に帰る喜びが待っている」です。
時々、私は自分の故郷はどこだろうか、と考えることがあります。一般的に言えば、故郷は自分が生まれ育った地、何かホットするところでしょう。
- ・私は台湾台北で生まれましたが、幼いときに基隆の港から最後の引き上げ船で日本へ帰国しました。そして22歳まで名古屋で生活し、それからドイツへ渡り35歳まで生活しました。そして帰国し、家内の実家であった和歌山に住み、その後堺に移り、現在は大阪へ移り住むようになりました。
- ・私にとって渡独した22歳までは、主の前の準備期間であったように思います。なぜなら今振り返れば、ドイツへ渡ったのも結局献身し、Dueseldorf 日本語キリスト教会を建てるためでした。堺へ移ったのも結局、教会 (Sakai International Bible Church) を始めるためでした。そして大阪へ移ったのも結局、北浜チャーチを始めるためでした。
- ・そして今度移動する場所は、たぶん地上ではなく主がおられる所 (天の御国) でしょう。本当に私たちの人生は旅人に過ぎないと自覚します。故郷とは私たちが安住して住むことができる場所、すなわち天の御国です。そこが私の真の「故郷」ではないかと思えます。
- ・しかし、そこはまだ足を踏み入れたことがないところです。聖書を読むならば、その故郷はどんなにすばらしいところであるかが書かれていますから、そこに向かうのは本当に喜びであります。
- ・話しは変わりますが、最近の報告では、海外で創造神に出会い、クリスチャンとなって日本に帰国する人数は、日本でクリスチャンとなる人数より多いと言われます。人生で生ける神に出会い、クリスチャンとなることは幸いです。私たちの教会にも、海外でイエス・キリストに出会い、信仰をもって帰国された方々がいらっしゃいます。それは神の祝福であります。
- ・私の信仰の先輩である阿部哲とう信徒伝道者がおられました。彼はノルウェーで生活しながら、ヨーロッパ各地の日本人 (or 日本語を話す人々) を自費で訪問しては、イエス・キリストの福音を宣べ伝えていました。ノルウェーには今も、彼が始めた「祈りの家」があり、阿部さんのスピリットを受け継がれた森兄弟姉妹が、同じく伝道を継承しておられます。
- ・阿部哲さんは大変ユニークな方でした。彼は高額収入者で、当時全収入の約60%を神にお捧げしていました。自分で飛行機チケットを買い、欧州各地を飛び回っておられました。一切謝礼や交通費は受け取りませんでした。私が伝道していた Dueseldorf にも何度も来てくださいました。また現在のパリ日本語教会の草分け者となられた方でした。彼の生活は次のようでした。
25:23 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』
- ・海外の日本語教会のはじまりは、このような信徒伝道者の働きによるものが多くあります。彼ら

は神から与えられたタラントを神に忠実に用い、尊い働きをされた信仰の先人たちです。

- ここに聖書が教える、私たちの大切な教訓があります。そこで今日は、聖書が教える人生教訓から学びたいと思います。 2点

大切なポイント

1. 聖書が教える人生教訓

1) 「役に立つしもべ」

- イエス・キリストは公生涯において、多くのわざと説教をされました。中でもいろいろな「たとえ話し」を用いて、神の国の奥義について説き明かされました。そのひとつに「役に立つしもべ」があります。

マタイの福音書25章14から30節を開いてください。

- 先ずストーリーを把握しましょう。
ある主人が自分の財産をしもべたちに預けて旅に出ました。主人はそれぞれの能力に応じて、5タラント、2タラント、1タラントをしもべたちに渡しました。(1タラントは当時6、000デナリ。1デナリは労働者の一日分の収入であったと言われます。)
- すると5タラント預かった者は、それで商売をして、ほかに5タラントもうけました。同じように、2タラント預かった者も、同じようにそれで2タラントもうけました。ところが1タラント預かった人は、次のよう行動を取りました。
25:18 一方、一タラント預かった者は出て行って地面に穴を掘り、主人の金を隠した。
- それから、かなりの時が経過して主人が帰ってきて彼らと清算をしました。
主人は5タラント預けたしもべを呼びました。
25:20 すると、五タラント預かった者が進み出て、もう五タラントを差し出して言った。『ご主人様。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください、私はほかに五タラントをもうけました。』
- 25:21 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』
- 2タラント預けたしもべも呼びました。彼も同じように、預かった2タラントで他に2タラントもうけました。
25:23 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』
- そして1タラント預けたしもべも呼びました。
25:24 一タラント預かっていた者も進み出て言った。『ご主人様。あなた様は蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集める、厳しい方だと分かっていました。
25:25 それで私は怖くなり、出て行って、あなた様の一タラントを地の中に隠しておきました。ご覧ください、これがあなた様の物です。』
- 25:26 しかし、主人は彼に答えた。『悪い、怠け者のしもべだ。私が蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかつたところからかき集めると分かっていたというのか。
25:27 それなら、おまえは私の金を銀行に預けておくべきだった。そうすれば、私が帰って来たとき、私の物を利息とともに返してもらえたのに。』

・そして、主人は次のように述べました。

25:30 この役に立たないしもべは外の暗闇に追い出せ。そこで泣いて歯ぎしりするのだ。』

- ・さて、イエスはこの「たとえ話し」で何を教えようとされたでしょうか。
 - ① この「たとえ話し」の中心人物は、役に立たないしもべです。役に立たないしもべとは、当時のユダヤ社会の律法学者、パリサイ人たちでした。それは律法と神の真理に対する彼らの態度（姿勢）でした。
 - ② 次に教えられることは、タラントはどれだけ持っているかではなく、それをどのように使うかです。神は人から能力以上のものを要求されませんが、持っている能力を十分に用いるよう期待されます。人はタラントの量は平等ではありませんが、それをを用いる努力においては平等です。多くても少なくても、神に奉仕するために用いることは大切です。
 - ③ もう一点教えられることは、努力しない者は罰せられるということです。

1 タラント与えられたしもべは、それを失ったのではなく、使わなかったのです。彼は自分のタラントはわずか、これでは何もできず、何の役に立たないから、何かをやってみても無駄だと考えたようでした。彼は危険をおかして、それを他の人のために役立てることはしませんでした。
- ・皆さん。ここには人生に関する普遍的な教訓が示されています。それは持っている人はそれを使うことです。使わなければ、持っているものまで取り上げられることです。人生の普遍的真理である教訓とは、神が与えてくださったタラントを、神と人々のために用いることです。

2) 「たとえ話し」の適応

- ① 私たちは皆、神からタラントを預かっているしもべのようです。タラントをどのように管理し、どのように生きるかは任せられています。いかがでしょうか。私たちは、いったいどのようにタラント管理を行っているでしょうか。
 - ② そして大切なことは、私たちはやがて主人の前に立ち、清算する日がくることを忘れてはいけません。つまり報告義務があります。聖書は次のように教えています。

5:10 私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。
- *これが、イエスが教えられた大切な人生教訓です。愛弟子ペテロは、この「たとえ話し」をイエスのそばで直接聞いていたに違いありません。彼は、イエスこそ真のメシアであると悟ってからは、初代教会の指導者の一人として、この教訓を生かし神の恵みに生きる人生の幸いを説きました。
- それが第2のポイントです。

2. 神の恵みに生きる人生

1) 欲望に生きた過去

- ・すでにご存じのように、著者ペテロはこの書簡をユダヤ人クリスチャンへ書きました。彼らはイエス・キリストに出会う前までの生活は、あの役に立たないしもべのような存在でした。そのことを振り返り、こう述べました。

I 4:3 あなたがたは異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、欲望、泥酔、遊興、宴会騒ぎ、律法に反する偶像礼拝などにふけりましたが、それは過ぎ去った時で十分です。

- 彼らは相当、酒におぼれ、また性的モラルにおいても乱れた生活をしていました。加えて、人間の手で作られた神々である偶像を礼拝していました。そうした中で彼らは、欲望に任せた生活の空しさ、愚かさに気がついてクリスチャンとなりました。自分の欲望に支配された生活と決別しました。
- そのような彼らに、ペテロは「それは過ぎ去った時で十分です。」と述べました。彼らが逆戻りする危険性があったからです。肉の惑わしを与える誘惑があったからです。

2) 誘惑とさばき

そこでペテロはこう述べました。

4:4 異邦人たちは、あなたがたと一緒に、度を越した同じ放蕩に走らないので不審に思い、中傷しますが、

- 生活が大きく変化したクリスチャンたちの姿は、元の遊び仲間にとって不可解であったでしょう。少し前まで、自分たちと同じように遊んでいたのに、宴会騒ぎしないし、淫らな遊びもしなくなり（興味心はなくなり）、不審に思うのです。
- きっと、「様子がおかしい」、「あいつは変人だ」、「偽善者だ」、「偉ぶっている」、「何様だと思っているのだ」等など、うわさや中傷の言葉が飛び交うことがあります。そのような状態に置かれ、嫌がらせをうけたり、いじめられたりするかもしれません。そんなつらい目にあうならば、妥協して以前のような生活に戻った方がよいという人たちもいたかも知れません。
- ペテロは「それは過ぎ去った時で十分です。」と述べました。しかし、大切な事実を見落とさないよう注意をうながしました。5節です。

4:5 彼らは、生きている者と死んだ者をさばこうとしておられる方に対して、申し開きをすることになります。

- 生きている者と死んだ者をさばこうとしている方とは、言うまでもなく神です。自分の欲望のままに生きている人々は、遠からず、すべての人をさばかれる神の前に立つことになります。神によってさばかれます。
- 聖書は「神のさばき」を語っていることは明らかです。耳に心地よいことだけを語って、真実を語らないのは愛ではありません。確かに神は愛です。しかし神はまた聖なるお方、義をもって世界をさばかれる方でもあります。神には見逃しはありません。罪を罪としてさばかれるお方です。
- 聖書は次のように語っています。ヘブル人への手紙9章

9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。

- しかし、神は恵みの神です。神は悪のさばきを受けるべき私のために、御子イエス・キリストを罪人の代わりにさばき、罰せられました。そこに救いがありました。ですから、私たちは主の前で、タラントを預かったしもべとして報告することはありますが、罪のさばきを受けることはありません。なんとという幸いではありませんか。ペテロはさらに次のように述べました。

3) 神の恵みに生きる

4:6 このさばきがあるために、死んだ人々にも生前、福音が宣べ伝えられていたのです。

- この聖書箇所は難解な箇所でもあります。ここの意味は、生前に福音を聞かされたのは、このさ

ばきがあるためであった、このさばきに備えるためだったということです。神のさばきがやがて行われる、まさにそのために、生前に福音を聞く機会が与えられているのである、という意味です。

4:6 彼らが肉においては人間としてさばきを受けても、霊においては神によって生きるためでした。

- ・神のもとに立ち返ったクリスチャンも、罪の支払う報酬である死を迎えます。それを免れることはありません。肉において、人間としてさばきを受けることとなります。
- ・信仰のない人たちからは、「なんだ、クリスチャンも苦しんだり、不遇の死を迎えたりするではないですか」と揶揄^{やゆ}されるかも知れません。しかし、死は通りますが、霊においては神によって生きる者となるのです。ペテロはこのことを3章でもすでに述べています。

3:18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

- ・皆さん。私たちも肉においては死にますが、霊においては生かされて、永遠のいのちを与えられた者として神の前に立つこととなります。なんとという幸いではありませんか。いたずらに恐れる必要はありません。いつくしみ深い天の父なる神の前に立つのですから、それは喜びの時です。そこは、私の真の故郷なのです。
- ・神を信じる聖徒も、やがて主人である神の前で地上の働きについての報告をする時がきます。その時、イエスが現れてくださり「これは私の愛する子です」と証言してくださいませ。なんとという幸いではありませんか。私たちは主に心からの感謝をささげ、主を賛美しようではありませんか。

ま と め

主 題：「故郷に帰る喜びが待っている」

—恵みに生きる—

- ・今日も主は私たちにお語りくださいました。神を信じ、イエス・キリストによって罪が赦された聖徒は、なんとという幸いな者でしょうか。私が今日教えらえたことを次の2点にまとめたいと思います。

1. 神が与えてくださったタラントを活用すること
2. 神の恵みの内に生きること

- ・最後に次のみことばを読み、お祈りしましょう。

3:18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

* God bless you!